

# 会派行政視察報告書

報告者 (会派等) 創政・改革クラブ

1. 視察日	令和7年2月19日(水)
2. 視察テーマ	自伐型林業について
3. 視察目的	森林の所有や管理が、お荷物ではなく価値を生み出すことができる小さな林業の仕組みづくりについて調査するため
4. 視察先	福井市「一般社団法人 美山きときとき隊」
5. 概要	座学および施業済み現場視察
(1) 現行の森林保全の課題	<p>①森林蓄積の増加＝森林伐採の減少 森林面積はここ50年以上ほとんど変わっていないが、森林蓄積は80年間でおよそ3倍にまで増加している→森の老化は森の衰退につながり、「地球温暖化防止機能の低下」「土砂災害の増加」「水源涵養機能の低下」をもたらす</p> <p>②所有者不明林の増加 登記簿上の所有者不明林の割合は「28.22%」、所有者はわかっているが遠隔地在住の不在林者保有森林面積は「24%」、経営管理が行われていない森林は私有林のおよそ2/3まで増加</p> <p>③林業従事者の人手不足・高齢化 林業従事者の数は40年間で70%減少、高齢者率は25%まで上昇</p> <p>※これらは全て現在も進行しつつあるものであり、早急に未来を見据えた策を施さなければならない</p>
(2) 森林施業の必要性と生業としての林業の成立	<p>(1)の課題は林業が経済活動として成立しにくいことに起因しており、森林所有者が受益できる林業の仕組みの構築が喫緊の課題。現在の林業の主流は、大きな施業体による大規模な林業だが、それでは逆に採算がとりにくく、結果として林業従事者の幅広い継承にもつながりにくい。また、大規模な林業には大規模な投資が必要となり、参入者の障壁となっている。また大規模作業者が入ることのできる作業道が必要となるが、それ自体が山を痛めつけ、結果として災害が起きやすい山林にしてしまっている現実がある。</p> <p>一方で自伐型林業は、他の仕事との兼業で行うことが基本であり作業も1～2人で行うことのできる、例えばDIY的な林業である。軽トラック1台が通れる作業道を小型の重機で自らが整備する(山相や水道を見定める少し専門的な研修は必要)ことから始まるが、その林道は最低限の立木伐採しか行わないため、隙間を縫って比較的密に走っているにも関わらず、意外にも災害に非常に強いことが立証されている。倒した材木は、その場で建築材のサイズにカ</p>

		<p>ットし、軽トラックに載せて運び出す。運び出しにおいても林道をうまく配置していることにより作業はしやすく、作業者への負担は極めて少ない。ペレットやチップ用材には端材のみを利用し、本体は建築用材として直接市場に持ち込む。建築用材のサイズも確定できている付加価値も加わり、立米単価は9,000円程度で取引されている。契約している山林所有者に配分を行っても、副業としてならば十分に成り立つ。</p>
(3) 行政支援について		<p>〈福井市の目指す林業〉  「伐って使って触れ合って未来に引き継ぐ森林づくりの推進」の基本理念の基、中長期的視点で計画を立案及び実施していく。3つのビジョンから福井市の目指す現在&amp;未来の林業像を描く。</p> <p>①森林の多面的強化  ②担い手の確保・育成  ③林業の成長産業化の推進  ⇒これらのことから、自伐型林業は大変に有効な方向性として、福井市は次の市の独自支援制度を設けている</p> <p>①U・Iターン見学補助金  ②U・Iターン就業奨励金  ③自伐型林業大学校  ④林業経営体ステップアップ事業</p> <p>自伐型林業を知り、学び、就業して地域に根を下ろし、所有者と契約を交わして作業を行って利益を得る生活スタイルを定着させることが目的であり、現実に自伐型大学校卒業者は地域内外のキーマンとして育成されている。定住するのではなく、技術を学んで他市・他県で就業する若者も多い。その場合は①②④の支援制度は活用できないため、就業地での支援は確実に必要となる。</p>



## 5. 考察・感想

「美山きときとき隊」は、福井市美山地区を拠点として自伐型林業に取り組む一般社団法人である。座学に加え作業現場での説明を受け、非常に合理的な体系による取り組みであることを感じた。

自伐型林業が広がれば、山に入る人や機会が増え、確実に山は付加価値を持って生き返る。獣害や災害の防止にも非常に効果的な方策であると考ええる。

代表理事の宮田香司氏は、副業というよりは、視察対応や全国での指導・講演なども含めお仕事はこれ1本となっている。しかしながら、普及も自分の役割と考えてはおられないなかにあっても、もともとの望みは、美山地域に定着し、地域の担い手の1人として地域に貢献することだという。

高山市においても、自伐型林業が広がることにより、過疎地のコミュニティー再生など含め森林保全以上の様々な社会課題の解決につながるのではないかと十分な期待を持つことができた。

クリアすべき課題は、そういったキーマン的人材を育成し、誘致し、高山の各地で活動に取り組んでいただく契機とシステムを構築することだ。そこは行政が主体的に環境を整えていかないと始まらないと考えるし、そのための補助政策など支援策にも行政の配慮が必須の条件であると考ええる。いつか誰かが言い出したらその時考えようではなく、キーマンを育成して地域に取り込む積極的施策展開が望まれる。

今回は自伐型林業に取り組む媒体の視察であったが、そこでいただいた福井市のパンフレットから、林業就業者の育成や森林政策の取り組みの本気度を見る気がした。

是非、高山市も取り組みや姿勢を真似ていただきたいと強く感じる。

### ◇CO<sub>2</sub>削減についての考え

物質として地中に固定されていたCO<sub>2</sub>が、化石燃料として利用されて空中に放出されたことが地球温暖化の原因。従ってCO<sub>2</sub>削減のためには、CO<sub>2</sub>の放出を抑制することと同時に、放出されてしまったCO<sub>2</sub>を空中から除去する方策が必要となる。

空中のCO<sub>2</sub>を凝縮し固形化するには、まだ新たなテクノロジーが確立されておらず、森林（樹木）のCO<sub>2</sub>吸収力に頼るしかない。

そのためには吸収力の衰えた高齢木から若木への更新を行うことが非常に重要。

更新で伐採された木材は、化石燃料に代わるエネルギーとして利用するだけでなく、凝縮固形化されたCO<sub>2</sub>を再び空中に放出しないよう、木質のまま地上に蓄積していくことが重要。

それができて初めて、CO<sub>2</sub>削減ができることになるが、そのためには、木質をバイオ利用するだけでなく、それもととても大切だが、建築材や家具、木工製品などCO<sub>2</sub>を固形化固定したままで日常空間に置くことが極めて重要。

